

優秀賞

## 積み重なる伝統が「つなぐ」世界

兵庫県立小野高等学校 2年 植田 彩花

「長い間その研究、されてますよね。」

「先輩や先生に言われたことをただ引き継いでいるだけでは？」

私はこの言葉を聞くたびにムツとする。聞き飽きるほど色々な人から言われた言葉だ。

私は今、高校で生物部に所属し、代々引き継がれてきたスミレ班の九代目として活動している。スミレ班では分類の再検討を主要なテーマとしてスミレ属の研究を行っている。私はこの研究を目当てに高校を決めたと言ってもいいほどで、毎日研究に没頭している。

研究は過去の先輩方が苦勞して失敗を重ね、作り上げてきたプロトコルを基に行っている。それは代々の先輩方と私をつなぐ宝だ。だが、この研究はただ先輩の研究を模倣して、何も考えずに行っているわけではない。スミレ属内でも各代で注目している部分は異なっているし、自分なりに考えて手法を増やしたり、見方を変えてみたり、より分かりやすい発表方法を考えてみたり……と工夫を重ねている。

そうした中で冒頭に書いたようなことを言われると、とても悔しくて仕方がない。私は自分の研究に誇りをもつて、責任をもつて毎日向き合っているのだ。

「つなぐ」とは、ただ伝統を引き継いでいくことではないと私は思う。「つなぐ」とは徐々に変容していくものだ。先代から引き継いだものを自分の代でも先代と同じように工夫を凝らし、より良いものにして、その技術をまた後代へと引き継ぐ。それが伝統を「つなぐ」ということではないだろうか。

そして、この研究は色々なチャンスへと私をつなげてくれている。入部してから早一年半。これまでに私が研究を通して出会った人は何人いることだろう。多くの人と交流をもつ中で、新たな気づきや学びを得ることが沢山あった。伝統によってつなげてきた研究が、私を新たな世界へとつなげてくれているのだ。そんな喜びを感じながら、私は今日もこの誇り高い、伝統の研究を続けている。